

## 平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

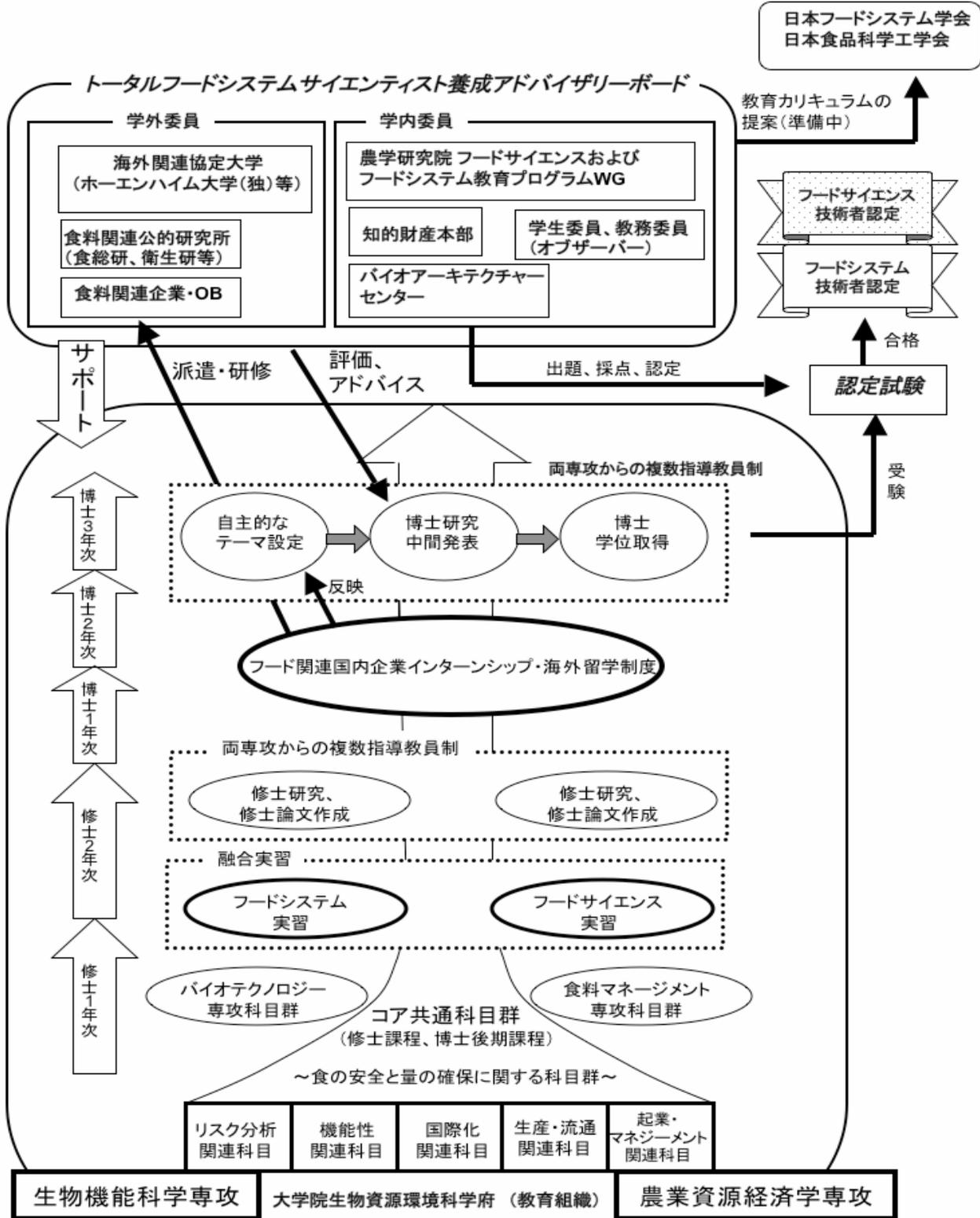
機 関 名	九州大学	整理番号	e015
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	世界戦略的フードサイエンス教育		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 農芸化学、境界農学、農業経済学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (食品科学、食品安全性、食品機能性、食品工学、農業経済学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ( [ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 生物資源環境科学府 生物機能科学専攻 [修士課程] 生物資源環境科学府 生物機能科学専攻 [博士後期課程]		研究科長(取組代表者)の氏名  今泉 勝巳
	(その他関連する研究科・専攻名) 生物資源環境科学府 農業資源経済学専攻 [修士課程] 生物資源環境科学府 農業資源経済学専攻 [博士後期課程]		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>九州大学では、平成12年4月より、全国でも初めての「学府・研究院」制度を利用し、学府教育に研究院の枠を超えた柔軟な組織編成が可能となり、単一の専門領域の知識だけではなく、異なる領域の知識を合わせ持つ研究者のニーズに対応すべく、深い専門知識を持ち、同時に関連する異なる領域の専門知識を必要とされている研究者を養成する組織の編成も可能となっている。この制度を用い、大学院教育の学際化と国際化を図るために、修士課程、博士後期課程を通してコア教育と融合実習を行うことは、今後の大学院教育の学際化の一步となる。</p> <p>本提案は食料生産を中心とした学際的教育プログラムを生物資源環境科学府を主軸として構築するものであり、本提案の中心となる①生物機能科学専攻のフードサイエンス教育・研究を基盤として、食料開発における市場調査、国際性、流通システム開発において重要な社会科学系教育との融合教育による国際的に通用するトータルフードシステムサイエンティストの育成、②海外留学制度の導入、③所定の単位取得者に対して試験を行い、合格者をフードサイエンス技術者およびフードシステム技術者として認定するが、将来的には日本食品科学工学会および日本フードシステム学会と連携して資格制度を構築することは、九州大学の中期目標に掲げ、推進している内容に一致する計画である。</p>			

機 関 名	九州大学	整理番号	e015
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)			
<p>生物機能科学専攻では、生命現象の基本的理解に立脚した、生物の優れた機能と生産物を有効活用とその総合化、高度化を通してバイオテクノロジーの新展開のできる人材の養成を目的に、教育・研究を行い、生物生産に関わる基礎および応用研究を担う優れた研究者ならびに技術者を輩出してきた。しかし現在、社会では経済学的、経営学的視野からも<u>世界戦略的な研究開発計画立案のできる人材</u>が求められている。また、農業資源経済学専攻では、安全な食料の安定供給とそれを担う内外の食料産業、地域経済社会の持続的かつ環境調和的発展に資するために、経済学及び経営学を軸に教育・研究を行ってきた。専攻の将来構想に合わせたカリキュラムの全面的な改訂を平成17年度に行ったが、その改訂の主たるポイントは、1)社会科学総合の観点からの体系的なカリキュラム編成、2)国際標準の視点と本専攻独自の視点の適正なバランス、3)学部と大学院カリキュラムの連続性強化などである。今後は新カリキュラムの推進、点検が課題である。</p>			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)			
<p>世界戦略的な食料の安全と量の確保ならびに安全性・機能性を志向した世界戦略的な食品開発研究のためには自然科学系と社会科学系の実質的な融合教育・研究が最重要課題である。米国では、食品安全大学院教育課程があり、博士前期・後期課程において、食品科学、食品安全および、これらに係る社会科学系の教育が行われ、戦略的な食品および食品安全システム開発のための人材が育成されている。しかし、わが国では、そのような実践的、世界戦略的食品開発のできる研究者を養成する教育研究施設はない。農学、特に食料科学分野において、社会科学的知識・技術を持ち、食品開発において世界戦略的・創造的研究を行うことのできる人材を育成する。また、研究開発技術分野と連携して戦略的食料マーケティング企画・システムの提案を行うことのできる食品産業事情に精通した人材を育成することが本提案の骨子である。本提案の中心計画は、</p>			
<p>①修士、博士後期課程を通した自然科学・食品科学系と社会科学系の融合したコア教育と融合実習  ②複数専攻教員による複数指導教員制と研究計画および実施への外部アドバイザーによる評価と提言の反映  ③インターンシップを通した実践型教育 ④海外留学制度の導入  ⑤所定の単位取得者に受験資格を与え、試験合格者を技術者としても認定する資格認定制度 である。</p>			
<p>本計画の実施により、修士、博士後期課程を通して若手研究者を養成する。①のコア教育と融合実習は修士、博士後期課程を通して実施し、②により、研究の計画および内容に国際性、発展性を強化することができ、さらに、教育の国際化、産学連携化を目的とする③および④により博士後期課程の中で一定期間、国内外の大学・企業で実地教育を受けることを推奨し、学生の自主的な研究の深化を図ることが期待できる。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

教育目標 :

バイオテクノロジー・知財・マネージメント・国際性を兼ね備えた  
フードサイエンス研究者およびフードシステム研究者



**< 審査結果の概要及び採択理由 >**

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、人材養成目的に即した教育プログラムが編成されており、成果と今後の展開が大いに期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・世界的な社会問題となっている食品の安全性を含めた食品科学の専門家を養成するために、生物機能科学と農業資源経済学の2専攻を融合させるなど、食品科学を包括する魅力的な教育プログラムである。また、外部アドバイザリーボードシステムによる評価と提言の反映や学会との連携により、資格制度が検討されいてる点は、特色ある取組と言える。